「推測の修正」 エクササイズ・シート (教員版)



Q

手順1　エクササイズ・シート (学生版)を配布し、英文を聞いてJohn は誰だと思うのかを推測し、4つの選択肢から選ぶように指示します。　　　　　　　　　　　　　　　読み上げる回数は、学習者の能力によって調整しますが、最高でも 5回[[1]](#footnote-1)までとします。

手順2 オーディオ・スクリプトの＜1＞を読み上げ、Johnは誰だと思うのかを推測した上で、 ①の「生徒、副担任の先生、担任の先生、その他」の中から選ぶよう指示します。

<1> John was on his way to school.
<2> He was terribly worried about the mathematics lesson.
<3> He thought he may not be able to control the class again today. 　　　　<4> He thought it was unfair of the instructor to make him supervise the class for a second time. 　　　<5> After all, it was not a normal part of a junior’s duties.

(Sanford & Garrod, 1981, p.10)

手順3 オーディオ・スクリプトの＜2＞を読み上げ、Johnは誰だと思うのかを推測した上で、 選ぶよう指示します。 この時、①で選んだ答えを変更しても構わないことを必ず伝えます。

手順4 オーディオ・スクリプトの＜3＞を読み上げ、Johnは誰だと思うのかを推測した上で、 選ぶよう指示します。 この時、②で選んだ答えを変更しても構わないことを必ず伝えます。

手順5 オーディオ・スクリプトの＜4＞を読み上げ、Johnは誰だと思うのかを推測した上で、 選ぶよう指示します。 この時、③で選んだ答えを変更しても構わないことを必ず伝えます。

手順6 オーディオ・スクリプトの＜5＞を読み上げ、Johnは誰だと思うのかを推測した上で、 選ぶよう指示します。 この時、④で選んだ答えを変更しても構わないことを必ず伝えます。

手順7 正答は「副担任の先生」であると発表し、以下を解説します。<1> や <2>の時点では、　全ての選択肢の可能性があります。しかし、<3>でcontrolという語が現れることにより、　　「生徒」ではないことが推測できます。さらに<4>で使役動詞のmakeに加え、supervise という　語が現れることり、「担任の先生」でもないことが推測できます。 最後に<5>で “…not…” や “junior’s duties” という語が現れることにより、Johnは「担任の先生」ではないことが確定　　　します。このように当初、推測した考えがおかしいと気づいたら、推測した内容を柔軟に変えていくことの重要性を指導します。

1. これはシャドーイングの研究結果ですが、5回までは聞く回数に比例して統計学的に有意差(= 科学的な　効果)があるとの研究結果が報告されています (Hori, 2007)。 [↑](#footnote-ref-1)